

令和6年度 学力向上グランドデザイン

桑折町立半田醸芳小学校

◎学力の実態 (○成果 ●課題)

〈日常の授業から〉

- 共有の仕方や振り返りの書き方が身についてきた。
- ICTや各種教材・教具・資料等の活用により、基礎的基本的な知識・技能が定着してきた。
- 現状に満足し、進んで挑戦する意欲や態度がやや足りない。
- 自分の考えの根拠や理由を示しながら論理的に表現する力が足りない。

〈各種調査から〉

- 国語科・算数科ともに全国平均を概ね上回っている。
- 国語科では「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力」、算数科では「知りたい数量の大きさの求め方と答え方を式や言葉を用いて記述する力」に落ち込みが見られる。

◎教育目標
考える子(知) 思いやりのある子(徳) たくましい子(体)
～夢いっぱい 笑顔いっぱい 元気いっぱい～

◎今年度の重点目標(知)
論理的に考え、よりよく表現できる。
(思考力・判断力・表現力)

◎今年度のスローガン
「プラスワン+」さらに高い目標に向かって
チェンジ and チャレンジ

◎現職教育研究主題
「課題解決への道筋を追究する児童の育成」
3年次 「根拠」「理由」を明確にした課題解決

◎「桑折町の15歳のめざす姿」
高い志をもって、自分の将来を切り拓いていこうとしている15歳
(子どもの15年間の成長を見据えた教育)

◎保護者・地域の願い～保護者へのアンケート等より～

- ・学力が身に付いてほしい。
- ・家庭学習や読書の習慣が身につけてほしい。
- ・思いやりをもった子に育ってほしい。
- ・挨拶や言葉遣いがきちんとできるようになってほしい。
- ・安全な生活を送ってほしい。

| P 確かな学力の定着をめざす学習指導の充実 | 特別支援教育の充実 | 読書活動の推進 | 家庭学習の習慣化と自己マネジメント力の向上 |
|-----------------------|-----------|---------|-----------------------|
|-----------------------|-----------|---------|-----------------------|

| | | | |
|---|---|---|---|
| <p>D</p> <p>① 基礎的・基本的な知識・技能の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「主体的・対話的で深い学び」をめざす授業の充実(視点・目的を明確にした学び合い) □ 適切な見取りと個に応じた指導の充実(月水木の昼「ちょこっとタイム」実施) □ 徹底反復「音読・計算・漢字」の「チャレンジタイム」の充実(月水金の朝) <p>② 「思考力・判断力・表現力」の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 目的を明確にした話し合い活動の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・根拠や理由を明確にして書く、話す ・意図を考えながら聞く □ 探究型学習の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ふくしまの「授業スタンダード」の活用 ・「活用力育成シード」の活用 □ 考えを共有し、思考を深める ICT(タブレット)機器の活用 <p>③ 振り返りの時間の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 児童の思考を揺さぶる課題設定の工夫 □ 自己の高まりを実感し、次時へつながるまとめ～適用や応用～振り返りの工夫 | <p>① 児童理解に基づいた合理的配慮、個別の指導計画を生かした指導</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 実態把握 □ 気になる児童の個別指導計画作成 □ 一斉指導中に行う個別の指導・支援の工夫 □ 個別の指導の場で個別の支援の工夫 <p>② 校内支援体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 担任と特別支援員との連携 □ 担任と通級指導教室や関係機関との連携 <p>③ ユニバーサルデザイン視点に基づいた授業作り</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 児童が安心して過ごすことができる教室環境作り(決まりやルールの「見える化」) □ 「分からない、できない」に素直になれる環境作り(多様性を認めるかかわり) □ すべての児童が分かる授業作り <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容や考え方、資料等を図解や画像などの視覚情報として示す「視覚化」 ・学習目標や内容を絞り込んで授業展開の構造をシンプルにする「焦点化」 ・話し合い活動などで学ぶ内容を互いに共有して確実に定着させる「共有化」 | <p>① 読書時間(読書タイム)の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 朝の読書タイム(週2回)、昼の読書タイム(全校集会がない金曜日)の設定 □ 図書コーナーの利用推進 □ 町図書館「遊学館よも～よ」からの図書の借り入れ(学期毎) <p>② 学校図書館司書・図書サポーター・読書ボランティア・図書委員会との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 図書コーナーの環境整備 □ おすすめの本(教科書に出てくる本)の教室への配当 □ 桑折町図書ボランティアによる読み聞かせ(学期1回ずつ年3回 1～4年生) □ 図書委員会による読書クイズや多読賞表彰 <p>③ 家庭における読書活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 毎月23日の「家読の日」(町PTA連絡協議会と共同で制定)に合わせた読書活動の充実 □ 年間10回の「家読」運動取組コンクール(町主催)への参加 | <p>① 「家庭学習スタンダード」「半田醸芳小 家庭学習の仕方」の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> □ ふくしまの「家庭学習スタンダード」を活用した学びの習慣化の確立 □ 「半田醸芳小 家庭学習の仕方」(全校用)と「各学年の家庭学習の仕方」(各学年用)を活用した具体的な学習方法の提示 □ RPDCAサイクルの構築 <ul style="list-style-type: none"> ・R…自分を知る ・P…計画する ・D…自ら学習する ・C…確かめる ・A…見直す <p>② 自学ノートの展示・掲示等による学習方法・内容への理解の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 授業と家庭学習を関連させる取組 □ 学習の足跡が見える自学ノートづくり(自学ノートの展示や掲示) <p>③ 家庭との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「桑折町・学び方のスタンダード」の活用 □ 「家庭学習カード」等の利用(各学年) □ 学級だより等による情報発信 |
|---|---|---|---|

| | | | |
|---|---|--|---|
| <p>C</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 活用力育成シート(目標正答率80%以上) ② NRT学力検査(アンダーアチーバー0) ③ 学期ごとの単元テスト、徹底反復チェックテスト(正答率80%以上) ④ 現職教育の研究会で実践成果と課題を探る。 | <ul style="list-style-type: none"> ① 気になる児童についての情報交換を行う。 ② 現職教育の研究会で実践成果と課題を探る。 | <ul style="list-style-type: none"> ① 年間の読書量により、図書委員会が表彰する。(低学年50冊、中学年40冊、高学年30冊) ② 年間10回の「家読」運動取組コンクール最終結果において、10回達成児童が80%以上 | <ul style="list-style-type: none"> ① 学校評価のアンケートを行う。(学力向上関係の項目について、達成している割合が80%以上) ② 自主学習のカードやノートに目を通し、励ましや称賛のことばを入れる。 |
|---|---|--|---|

| | | | |
|---|--|--|--|
| <p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 成果の分析・評価と新たな課題の明確化 ② 多様な体験活動の充実と学びの検証 ③ 授業者の自己分析と改善、次への実践 | <ul style="list-style-type: none"> ① 全職員の相互理解と実践 ② 一人一人の課題にそった指導(上位児、下位児) ③ 授業者の自己分析と改善、次への実践 | <ul style="list-style-type: none"> ① 集計結果の公表と啓発 ② 読書活動の励行と「家読の日」の取組 ③ 図書便りの発行 | <ul style="list-style-type: none"> ① 家庭学習の励行 ② 学校と家庭とが一体になった取組への啓発 |
|---|--|--|--|

